

## 別府溝部学園短期大学 学科・課程名

### ○ライフデザイン総合学科

- ・ファッション&ビューティエリア
- ・ビジュアルデザインエリア
- ・医療情報エリア
- ・キャリアデザインエリア
- ・日本語教育エリア

### ○食物栄養学科

- ・健康栄養コース
- ・保育栄養コース
- ・医事栄養コース
- ・留学生コース

### ○幼児教育学科

- ・保育コース
- ・留学生コース

### ○介護福祉学科

#### 学科・コース・エリアの教育目標(ポリシー)

みなさんは、本学への受験に際して、進学する学科に加えてその学科の中のどのコース、エリアを選択して履修するかを決めていた人も多いと思います。公表された入試要項にも掲げられているように、各学科にはそれぞれいくつかの履修コースやエリアがあります。

それらは、それぞれに独自の教育目標をもち、独自の専門的な学問系列にしたがって履修がなされるものですが、本学の場合、建学の精神にもとづいて、ほとんどが資格や免許の取得ができるような教育課程を組んでいます。

本学では、新入学生の履修コース・エリアの選択を入学直後の春季研修会(オリエンテーション)で十分な説明を加えたうえで確定することになっています。

細部についてはこのオリエンテーションのときに行なわれる各学科長の解説と指導を待つとして、ここでは概説を試みておきます。

### ライフデザイン総合学科

平成 20 年度から新たにスタートしたライフデザイン総合学科は、以前の服飾デザイン学科のファッション造形コースとグラフィックデザインコース、食物学科の医療情報コース及び留学生コースとが一体となって組織された新しい学科です。従来の「コース」は「エリア」として名を変え、また内容も、コースより一段と選択の幅が広がり、より自分の受けた授業を受けることができるようになりました。また、より多くの資格を取得する

ことも可能になりました。

それぞれのエリアに所属する学生が、自分の学びたいこと、また取得したい資格などによって科目を選び、自分の手で工夫して、自分なりの授業時間割を作っていきます。基礎教育フィールドの科目は他学科と共通ですが、専門教育フィールドでは、それぞれのエリアごとに設定された科目の中から、また他のエリアの中からも選んで、学びたい科目の授業を受けることができます。

学生一人ひとりの夢実現のため、将来の個々の職業に必要な知識。技能を習得し、人間的にも豊かな心や洗練されたマナーを身につけ、社会に有為な人材として育っていきます。

#### **(A)ファッション&ビューティーエリア**

ファッション&ビューティーエリアでは、1年次に服作りや色彩・コーディネート技術・メイクアップ技術・ネイルアート技術などの基礎を、2年次にはさらに高度な技術が要求される洋服のデザイン・造形・独創的なメイクアップ・ネイルアート・販売テクニックなど、実社会に出たときに即戦力として活躍できる力を身につけます。また、産業界が必要とするクリエイティブな能力を開発するためのアパレル産業論、豊かなイマジネーションを養うためのアートデザイン(染色・陶芸・アクセサリ作り)、ディスプレイ・プレゼンテーションなど、幅広いカリキュラムを組んで時代のセンスを持つプロフェッショナルを育てます。

#### **(B)ビジュアルデザインエリア**

マッキントッシュコンピュータを導入し、デザイン・広告・印刷業界で、今必要とされている知識、技術を基礎から応用まで幅広く学び、デザイナーをめざします。

またビジュアルデザイン全般、工芸(染色・陶芸)、絵画についても学び、各自の感性と知識の両面から磨いていきます。

#### **(C)医療情報エリア**

病院、診療所での医療秘書・医療事務、一般企業などの事務的分野で活躍できる人材育成を目標としています。特に、パソコン活用能力、事務処理能力の向上を目標とする授業を数多く開講しており、パソコン検定などに合格し、就職してからの即戦力を養います。

また、事務的技術の習得。習熟にとどまらず、あわせて、「人と人」とのコミュニケーション能力を身につけて、就職に有用な技術や知識を学びます。

#### **(D)キャリアデザインエリア**

各エリアにわたって自分の好きな科目やユニットを自由に選択できるエリアです。様々な科目を学びながら自分のしたいことや将来の方向を考え、それにもとづいて自分の学びたいこと、また学ばなければならないことを中心に授業時間割を組み立てて、それぞれの目標を達成していきます。

#### **(E)日本語教育エリア**

留学生を対象としたエリアです。日本語能力試験 N1、N2 合格、日本留学試験 200 点

以上取得を基本に、大学 3 年次編入、資格取得、日本での就職をめざします。日本語能力向上を中心に据え、情報科学、コミュニケーション論などの基礎科目と、社会一般、ビジネス実務・マナー、日本の文化・社会などを専門教育フィールドで学びます。1 年次から 2 年次前期までは日本語能力の向上に主眼を置いたカリキュラムで、日本で留学生が必要とされる知識、教養を学びます。全学科からも自由に選択可能です。

ライフデザイン総合学科では、次の資格等を取得することができます。

(受講して取得できる資格)

ファッションアドバイザー  
ビューティーアドバイザー課程修了証  
DTP デザイナー  
Web クリエイター  
DTP オペレーター課程修了証  
ビジネス実務士  
プレゼンテーション実務士  
医療秘書実務士  
診療情報管理実務士  
介護保険実務士  
情報処理士  
医事コンピュータ実務課程修了証  
ICD コーディング実務課程修了証  
電子カルテ実務課程修了証  
社会福祉主事任用資格

(めざす資格)

販売士  
ファッション販売能力検定  
ファッションビジネス能力検定  
ファッションコーディネート色彩能力検定  
Photoshop クリエイター能力認定試験  
Illustrator クリエイター能力認定試験  
色彩検定  
日本語ワープロ技能検定  
情報処理技能検定(表計算) 簿記検定  
ビジネス能力検定  
日本語能力試験 N1、N2  
日本留学試験 200 点以上

etc

## 食物栄養学科

### 健康栄養コース

近年、生活習慣病の予防等が大きな問題となっています。健康増進と疾病予防のためには日々の生活習慣、特に食生活（食習慣）と身を動かすこと（運動習慣）が重要です。

このコースでは健康を栄養と運動の両方から捉え活力ある生活作りに役立つ知識を学び、調理もできる実践力のある栄養士をめざします。更にはコンピュータ等の情報機器を駆使して給食管理及び正しい栄養指導のできる人材を養成します。

また、栄養士の免許の他にプラスワンとして必要な単位を取得すれば下記のようないろいろな免許や資格が取得でき、就職時にも大いに役立ちます。

「栄養。運動。休養をコーディネートできる栄養士」「いろいろな職種へ適応できる幅広い栄養士」がこのコースのねらいです。

#### ※取得免許・資格

- 栄養士(国)
- 健康運動実践指導者(民)受験資格
- 健康アドバイザー(学)
- 訪問介護員(ホーム、ヘルパー)2級(国)
- 救急法救急員(日本赤十字社)
- 社会福祉主事任用資格(国)

### 保育栄養コース

平成17年度より栄養教諭の養成が全国一斉にスタートしました。一生の健康を最も大きく左右する食について、幼児期。学童期の子ども達に望ましい食生活が自己管理できるようにサポートができる栄養士をめざします。

栄養士としての基礎。基本について学び「調理のできる栄養士」であることはもちろんのことです。更に、子どもとかわるための心理学や保育原理等についても学び、保育園・幼稚園・小中学校等で、食事を通して「食育のできる栄養士」を養成します。

食育のための媒介作りのために、各種教育機器や紙芝居演劇等の様々な指導手段についても学びます。更には、乳幼児期の子ども達にでも食事の楽しさやマナー等について指導できる技術についても学びます。

このコースでは「栄養士」+「栄養教諭」の免許を兼ねそなえた「子ども達に楽しく食育のできる栄養士」の養成がねらいです。しかし、途中で希望が変わった場合でも病院や福祉施設等の他の関係の施設等にも就職することは可能です。

#### ※取得免許・資格

- 栄養士(国)
- 栄養教諭二種(国)
- 社会福祉主事任用資格(国)

## 医事栄養コース

病院、診療所(医院。クリニック)などの医療施設の窓口において、受付・カルテの作成・案内・診療報酬の計算・投薬などの業務が行われています。この窓口業務において、栄養指導を行う人材が求められています。

そこで、食物栄養学科の医事栄養コースでは「栄養士」+「医療事務」実務のできる教育を行っています。

栄養士免許取得に必要な科目の他、日本医療福祉実務教育協会が認定する「医療秘書実務士」資格の取得に必要な科目が受講でき、あわせて、情報処理能力を高めていただくための科目も受講できます。特に医療施設では高いコミュニケーション能力が期待されていることから、これらの人材育成にも力を入れています。

### ※取得免許・資格

栄養士(国)

医療秘書実務士(民)

社会福祉主事任用資格(国)

## 幼児教育学科

### (A) 幼稚園教諭免許と保育士資格

この学科の特色のひとつとして、幼稚園教諭免許と保育士資格を同時に取得できるということが挙げられます。幼稚園教諭については文部科学省が、保育士資格については厚生労働省が指定する教育課程にもとづいて、科目履修および単位の修得がなされます。

免許や資格の付与に必要な諸種の学外施設での実習の実施上の困難などもあって、多くの大学では、いずれか1つの養成課程を履修させることが多いようです。したがって、本学のように2つの免許・資格を取得することは、履修のうえでかなりな負担となることを覚悟しなければなりません。しかし、すでに一部では幼児教育について、幼稚園と保育所での保育の内容が一元化されています。幼児教育をめざす学生の将来にとって、両資格をもつことはきわめて有利な条件となります。また、保育士資格は前述の保育所(園)に加えて、養護施設・知的障害児施設・乳児院・肢体不自由児施設・重症心身障害児施設などの社会福祉施設への就業も可能な資格です。

この学科での専門教育科目は、原理、教育学系、心理系、福祉、医療系、保健、栄養系、保育内容系、教科系(音・図・体)などの諸系列の科目編成となっています。このうち教科系の音楽の各科目および実技については、入学前における学生の既習度のいかんによってはかなり困難な履修となるので、音楽教育施設(ML教室やレッスン室)を活用して自学自習に励んでください。

さらに、この学科では保育実習や教育実習が重要な科目となります。11単位約66日を超える各種段階での実習が、関連科目の履修成果を実践する場となり、学生の保育者としての自覚や実践的能力の育成に極めて大きな意義をもつからです。本学では、実習の

基礎段階を付属ひめやま幼稚園と寒田ひめやま保育園、ひらた保育園で十分に体験したうえで、学外各施設での実習に移行するようになっていきます。

#### (B)レクリエーション・インストラクター資格

レクリエーション講座受講者には卒業時に公認指導者証が交付され、日本レクリエーション協会認定レクリエーション・インストラクターとして認定されます。1994年度から文部省（当時）の認定事業の一環としての所定の課程修了者にレクリエーション・インストラクターの名称が公認されるようになったものです。

レクリエーション・インストラクターは、公認指導者規定に定まる他の公認指導者資格の基礎となる資格です。今日、人々の余暇生活の充実が国民一人ひとりの大きな課題となってきています。そのためにみんなで楽しめる様々なレクリエーションの知識と技術を身につけた援助者（指導者）が求められています。

本学でのレクリエーション講座を2年間受講し、学外での研修（1泊2日の宿泊を含む）を終えることで資格取得となります。

#### (c) ピアヘルパー

現代社会の特徴の一つに科学技術の進歩と高度通信技術の驚異的な進歩があげられます。こうした技術の進歩により、国際化、情報化、競争化がもたらされ、現代社会は時間的切迫感を持ったストレス社会であるといわれています。そのため、ヒューマンサービスに携わる職能人にはストレスに対処する力やコミュニケーションスキルが強く必要とされるようになっていきます。

このような力やスキルを証明するものの一つとして、日本教育カウンセラー協会の認定資格であるピアヘルパーがあります。本学で開講されるカウンセリングや関連する心理学の理論方法についての科目を履修し、筆記試験に合格すると、ピアヘルパーの資格を取得することができ、カウンセリング等について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人と関わるために必要な基本的な力を身につけた者であることが証明されます。また、資格取得後、保育等の実践経験や協会主催の研修に参加することを経て初級教育カウンセラー資格を取得できるパスポートにもなります。

人間関係の希薄化が進む現代社会において、今後ますます必要な資格であるといえるでしょう。

#### ※取得免許・資格

幼稚園教諭二種免許(国)

保育士資格(国)

レクリエーションeインストラクター資格(民)

社会福祉主事任用資格(国)

ピア・ヘルパー(民)

## 介護福祉学科

我が国の高齢化は、世界に類を見ない速さで進行し、平成 20 年の高齢化率 22.1%が平成 26 年には 25%に達し、国民の 4 人に 1 人以上が 65 歳以上の高齢者という超高齢社会の到来が予測されています。また、大分県の平成 19 年の高齢化率は 25.30%(総務省統計局推計人口)で、既に超高齢社会へ突入しており全国 9 番目の高齢県となっています。さらに別府市はといえば、平成 21 年の高齢化率が 27.9%で国。県を上回る高齢化が進んでいるのが現状です。

また、高齢夫婦世帯(夫婦のどちらかが 65 歳以上)、高齢者単身世帯(ひとり暮らしの高齢者世帯)ともに、その数及び構成比は増加傾向にあります。

こういう時代背景の下に、介護の専門家によるニーズの高まりが介護福祉士制度を創設しました。そして、改正「社会福祉士及び介護福祉士法」(平成 19 年)では、介護福祉士の定義が「専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行い、・・・」と、旧法の「入浴、排せつ、食事」にとどまらず、それぞれの高齢者への個別ケアを求めるものとなっています。

本学では、生活支援とりわけ食事面での知識・技術の乏しい介護福祉士が多いという緊急課題から、食を中心とした栄養、調理などの高い知識・技術を持った介護福祉士の養成を行います。あわせて、被服、住居などの生活支援技術や知識も並行して学びます。

さらに、高齢者・障害者とのコミュニケーション能力の向上を図るために、高齢者や障害者の心理を学んだり、「コミュニケーション論」をとおして円滑な人間関係が生まれるような声・表情などを具体的に学びます。また、知覚障害者や聴覚障害者と対応するための技術なども修得します。

以上のように、高齢者・障害者との円滑なコミュニケーションができ、「人間の尊厳」を支えるケアの実践ができる生活支援の技術をしっかり身につけた「介護福祉士」を養成するのがねらいです。そのため「元気よく生活支援ができ 人の気持ちに寄り添える 礼儀正しい介護福祉士」を学科のコンセプト(基本理念)として掲げています。

### ※取得免許・資格

介護福祉士(国)

レクリエーション・インストラクター(民)

福祉レクリエーション。ワーカー(民)

介護保険実務士(民)

赤十字救急法救急員

社会福祉主事任用資格(国)

その他、検定試験の受験会場として、

パソコン等の情報処理関係の資格取得も可能

## 教職課程

本学での履修と単位の修得によって取得できる教職免許としては、幼児教育学科の幼稚園教諭2種免許、食物栄養学科の栄養教諭2種免許があります。

栄養教諭免許状取得については、「栄養士の資格」取得が前提であり、それに加えて、教職に関する科目履修(教職論、教育課程論、生徒指導、教育相談論他)と校外での栄養教育実習が課せられています。

幼稚園教諭免許状の取得のための履修については、幼児教育学科の正規の教育課程における専門教育科目の中に教職に関する必要科目が組み込まれていますので、この学科の教育課程の履修で充分であります。